

不便でこそその益がある？

京都先端科学大学

川上 浩司

今月から一年間、「不^{benefit of}便^{inconvenience}益」の話にお
つきあいいただきます。

まず、「不^{benefit of}便^{inconvenience}益」とは何のことだと思
われたことでしょうか。または、聞いたこ
とがあるぞという方もいらっしゃるかも
知れません。ぱつと見た^{しじら}字面から、不^{benefit of}便^{inconvenience}益^{inconvenience}という意味に誤解されることもあ
りますが、正しくは、不^{benefit of}便^{inconvenience}の益 (benefit
of inconvenience) 〴〵、という意味です。

いでしよう。「不便だからこそ得られる
益がある、それを不^{benefit of}便^{inconvenience}益と名付けまし
た」と言うと、「常日頃から自分がうっす
らと考えていたことに名前をつけてくれ
たのですね」と返されることが多いです。

あるいは、最初はキョトンとされて、
何を言っているのだろうかこの人は？
という顔をされることもあります。ただ、
そういう方でも少しお話をしてみると、
自分の不^{benefit of}便^{inconvenience}益体験（不便だからこそその益
を得た体験を、略してこのように呼びま
しょう）を次々と繰り出されます。しか
もうれしそくに。皆さん、不^{benefit of}便^{inconvenience}益体験を
楽しんでいらっしやるようです。

今回は、我が意を得たりと感じた方に

また、正しい意味を知った上で、古く
から伝わる仏教用語だと思込込んでいる
方もいらっしゃるようですが、実は比較
的新しい言葉なのです。といっても二十
一世紀以前にまで遡りますが、宗教とか
社会科学などとは無縁の工学部出身の大
学教授が、情報学（コンピュータサイエ
ンスを含む）の研究室に居ながら今から
四半世紀前に言い出した言葉です。

〴〵我が意を得たり〴〵と思われた方も多

は「そうそう、あるある」と思ってもら
うために、キョトンとされた方には「そ
ういうことだったら、私にもあるある」
と思ってもらうために、私が、勝手に不^{benefit of}便^{inconvenience}益認定^{inconvenience}したものいくつかをピック
アップしてみます。

私が不^{benefit of}便^{inconvenience}益事例のコレクションを始め
た四半世紀前のことです。当時も今も大
学生の便利な通学手段として原動機付き
自転車（略して原付）があります。ある
時にある学生が「先週は原付が壊れてて
徒歩通学をしていた」と言ってきた。
そして、不^{benefit of}便^{inconvenience}益があつたというのです。
不便な徒歩通学のおかげで、原付のとき
には気にもしなかつた食堂がふと目に入
り、フラッと入ってみたら、お気に入り

の食堂が一つ増えた、というのです。

自分を振り返ってみると、時間に余裕があるときでさえ、便利な手段を使って最短の時間で無駄なく脇目も振らずに大学の研究室と自宅を往復する毎日でした。通勤方法を変えることがあっても、それはより便利で効率的な方法を見つけたときだけです。これでは、徒歩通学をしてきた学生のような不便益を得ることができません。

徒歩通学という不便な方式には、おやつ（食堂があるぞ）と気づく。チャンスを増やすという益がありました。また、フラッとやってみる（食堂に入ってみる）。チャンスを増やすという益も

かったようです。不慣れた英語でのチャネル争いに勝ってワールドカップを見ていると、隣に座って観戦している人がどうにも気になります。自分とテンションが真逆なのです。聞いてみると、案の定、日本の対戦相手国出身だったそうで、一緒に盛り上がり、今でもメールをやり取りをする仲になったとのことでした。

ロビーでテレビをシェアという不便な方式にも、おやつ（隣の奴はもしかして）と気づく。チャンスをくれ、フラッとやってみる（話しかけてみる）。チャンスをくれる益がありました。もし便利に自分の個室にテレビがあつたら、これらのチャンスは訪れるはずありません。

ありました。

他にもないかと探してみると、ヨーロッパをバックパックツアーして来た学生も同様の不便益をゲットしていたことがわかりました。今は少なくなりましたが、四半世紀前にはバックパックで外国を1カ月ぐらい旅する学生がたまに居ました。そのような旅で使う宿は、大抵は一泊数千円の安宿で、そういう宿では、テレビはロビーにある一台を宿泊客がシェアする方式です。

個室に個別にテレビがある方式と比べれば、ロビーのテレビ方式は不便です。そしてこの学生は、ワールドカップの日本戦をどうしてもテレビの生中継で見た

おやつと気づくチャンス。とフフラッとやってみるチャンス。は、不便益のほんの一部です。学生たちとたくさん不便益事例を収集して分類整理したところ、この二つを含めて八つの（不便から得られる）益にまとめることができました。また、どのように不便にすれば益が得られやすいかも十二のタイプが見つかりました。これから一年間、少しずつ、八つの益と十二の不便タイプを紹介していきます。

川上浩司（かわかみひろし）

一九六四年生まれ。京都大学工学部、同工学研究科修了。京都大学助教授・特定教授などを経て京都先端科学大学工学部教授。不便益の研究で学会論文賞、出版賞多数。著書に『不便益という発想』（二〇一七）など多数。